

静岡県の学校図書館

平成 27 年 11 月発行
静岡県総合教育センター
生涯学習推進室

地域や公共図書館
と連携しよう！

図書館法

第一章 総則

第三条

図書館は、図書館奉仕のため、土地の事情及び一般公衆の希望に沿い、更に学校教育を援助し、及び家庭教育の向上に資することとなるように留意し、おおむね次に掲げる事項の実施に努めなければならない。

(略)

三 図書館の職員が図書館資料について十分な知識を持ち、その利用のための相談に応ずるようにすること。

四 他の図書館、国立国会図書館、地方公共団体の議会に附置する図書室及び学校に附属する図書館又は図書室と緊密に連携し、協力し、図書館資料の相互貸借を行うこと。

学校図書館を有効に活用するため、子どもたちの読書活動を推進するため、司書教諭や学校司書だけでなく、図書館ボランティアや読み聞かせボランティア、または公共図書館との連携が大切です。ここでは、学校だけでなくボランティアや公共図書館などで子どもたちの読書活動に関わる方たちを対象に行った講座を紹介します。

「みんなでつくろう 学校図書館講座」 ～ビブリオバトルに挑戦しよう！～

今年の「みんなでつくろう学校図書館講座」は、9月に三島市民生涯学習センター、10月に総合教育センターを会場に行われました。今回は、全国学校図書館協議会スーパーバイザーである東京学芸大学講師の高見京子先生に「つながり広がる読書イベント」として、御講義・演習をお願いしました。岡山県内の高等学校で、長年、学校図書館に携わった多くの実践や、高校生や大学生の間で注目されている「ビブリオバトル」の紹介や演習は参加者にとって興味の引く内容であり、大勢の方が参加されました。

高見先生の実践は、授業前の5分間のブックトークや夏休みの読書感想文発表会、高校生による地域を対象とした読み聞かせ、作家へのメッセージを送る取り組み等、子どもたちが本を読むきっかけ作りになるヒントが盛りだくさんにありました。「読書活動」と一口に言っても、様々な方法があります。先生が紹介されたいつでもどこでも気軽にできる読書ならば継続でき、これからの読書人生に大きな影響があることを強く感じました。参加者からも、「多くの読書イベントを知ることができた。学校や子どもの実態にあったものを取り入れていきたい。」「お話を聞いてわくわくするような読書活動ばかりでした。」などの意見が寄せられました。

午後に行われた「ビブリオバトル」の演習では、グループに分かれ、お互いにお気に入りの本の紹介をしました。「ビブリオバトル」には公式ルールがあり、この公式ルールさえ守れば、あとは対象者の実態に合わせていけばよいとのことでした。実際に一人5分間の持ち時間は長いように感じましたが、回が進むにつれ、聞いてみたいこと、話したいことが増えてグループでの活動が盛り上がっていったことが大変印象的でした。高校生や大学生が主なターゲットになっている「ビブリオバトル」ですが、小中学生も時間や方法など、工夫すれば十分楽しめる活動です。

是非、みなさんの学校や図書館でも取り組んでみませんか？



参加者によるビブリオバトルの演習

【ビブリオバトル公式ルール】

- 1 自分が面白いと思った
本を持って集まる
- 2 一人5分で本の紹介
- 3 紹介のあとに
ティスカッションを2分で行う
- 4 全て終わったら一番読みたい
本をチャンプ本として選ぶ

(人数に決まりはありませんが、
5人程度が適当と思われます)

学校図書館と公共図書館が連携した取り組み

公共図書館と連携した授業づくり

小笠北小学校では、道徳の時間に「国際理解」の授業を行うため、公共図書館の司書の方に資料集めを依頼しました。この授業には「外国の人々や文化について知り、その違いを大事にしながら世界の人々と仲良くしていこう」というねらいがあり、3年生のクラスで行われました。授業を行う1週間ほど前から、外国に関わる図鑑や資料を教室内に展示し、当日の授業では、外国の友達と仲良くなる男の子のお話を扱いました。担任の先生は、この授業のために何ヶ月も前から近くの公共図書館に出向き、司書の方に授業について相談し、20種類以上の本をそろえていただいたそうです。学校図書館ではそろえきれないほどの豊富な資料は、先生の授業と相まって、子どもたちの心に響くものとなりました。



外国の文化に関する図書資料

授業などでたくさんの資料やそれに関連する本が必要なときは、学校図書館だけでなく、公共図書館とも連携し、子どもたちの学びを深めていくことができます。積極的な関わりが大切です。

学校と地域が連携した学校図書館



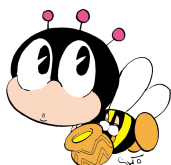
図書館入り口のディスプレイ



書架と読書スペース

島田市立川根小学校の学校図書館は、校舎の建て替えに伴い学校図書館を新しく地域の図書館と一体化させ、8月にオープンしました。小学校と行き来のできる図書館は手前に川根小の本、奥に川根図書館の本が置かれています。天井が高く開放的で、優しい木のぬくもりが感じられる図書館は、子どもたちの安らぎの空間となっているそうです。新しくなった図書館では、川根図書館の本も貸し借りができるため、すぐに手に取り、読書をしたり、学習に使ったりすることができます。

そんな図書館には、休み時間や昼休みになると、大勢の子どもたちがやってきます。自分の読みたい本めがけて棚に走る子、どうしようかあれこれ迷いながら歩く子、1冊の本を取り出し読書スペースで友達と一緒に読み合う子、図書館支援員に「この本貸してください!」「これ返します。」とカウンターに並ぶ子、など様々です。どの子もみな嬉しそうに、そして笑顔で図書館にやってきます。8月にこの図書館がオープンしてからは、子どもたちの本の貸し出しが3倍にも増え、子どもたちの読書への意欲が高まっています。また、公共図書館であるため、地域の方々も訪れ、地域のみなさんで子どもたちを温かく見守ってくださっているそうです。



静岡県生涯学習情報発信システム「まなぼっと」の「いきいき学校図書館」には、学校図書館活用に役立つ情報が満載!!

<https://www.manabi.pref.shizuoka.jp> より、

ご覧いただけます。

まなぼっと 学校図書館

検索

